

2025年度 事業計画

2025年度 事業計画概要

社会福祉法人 札幌この実会

2025年は、日本の人口の約5人に1人が75歳以上の後期高齢者となり、社会保険の負担増や働き手不足等の「2025年問題」が生じ、社会全体へ大きな影響を及ぼすことが予想されます。特に福祉業界では、十分な人材確保が追いつかなくなり、また、高齢者が増えることで、仕事をしながら家族の介護を行う「ビジネスケアラー」の問題も考えられます。今後も利用者へのサービスを維持していくためには、職員の確保・定着が必要不可欠であるため、仕事と育児・介護の両立ができる職場環境づくりへ取り組んでいきます。

2024年度から「中長期的な日中活動の体制の見直し」の方向性について意見交換を行ってきましたが、2025年度は具体策を講じていきます。サテライト2・6及び隣接地を日中活動(生活介護)の場として活用し、2つの生活介護事業所の役割や機能を明確化させ、また、地域での暮らしが長く続けることができるように、利用者の高齢化と重度化への対応についても整理を進めていきます。

将来展望と具体策の取り組みである「みらい会議」について、2025年度は3年ごとの「定期的な見直し」を行う時期であり、各チームから短期・中期・長期の具体策や取り組みを整理しています。また、整理した内容を踏まえて、これまでみらい会議の参加対象者が「正職員」限定でありましたが、全職員に示し、チームの変更や複数のチーム(一部のメニューでも可)に関わることができるように、再度チーム編成を行います。「どうすれば、職員を巻き込みながら、具体策を進めていけるか」の課題を常に意識しながら、今年度も取り組みを継続していきます。

人材確保について、2025年度は、「正職員」の働き方を改善(公休数の増加)した他、社会問題となっている奨学金の借入について、奨学金返還支援の導入を予定しております。これらの取り組みをアピールしていくため、外部へのPR活動も積極的に行っていきます。まず、新卒確保に向けて、過去2年間新規学卒者の確保ができなかったため、有償の求人サイト(マイナビ2026・ジョブキタ就活2026)へ掲載し、求人の露出量を増やしていきます。また、昨年からの作成を続けてきた採用向けパンフレットが2月に完成し、今年度も参加予定である福祉職場説明会等で求職者へ配布し、アピールをしていきます。中途採用に関しては、多様な人材を積極的に雇用し、その中でも働く時間や日数等については柔軟に対応し、確保・定着が進むような環境づくりに努めていきます。

その他、ホームページリニューアルを行い、外部への情報発信の強化を図り、また、ICT(タブレットの導入や日誌記録システムのバージョンアップ等)も強化し、記録等の業務の効率化を図っていきます。

1. 理事会・評議員会の開催

理事:6人 監事:2人 評議員:7人

開催月	機関	主な議案等
5月	理事会	2024年度事業報告及び決算の承認
		【任期満了に伴う改選】役員候補者の推薦
		定時評議員会の招集
6月	定時評議員会	2024年度事業報告 2024年度決算の承認
		【任期満了に伴う改選】理事及び監事の選任
	理事会	理事長の選定
9月	理事会	
12月	理事会	2025年度補正予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2025年度補正予算の承認
3月	理事会	2026年度事業計画及び収支予算の同意
		評議員会の招集
	評議員会	2026年度事業計画及び収支予算の承認

2. 監事監査について

各理事会前に監事が業務監査及び会計監査を行います。

3. 事業運営について

2025年度の運営事業は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数見込)約10,500人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

■短期入所事業 りらく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数見込)約900人

(体制)食事提供体制

【事業所としての重点目標】

- ①事業所全体の支援力の向上…職員が各々の能力を発揮できるように促し、事業所全体の支援力の向上を目指していきます。
- ②利用者への意思決定支援の実践…「個別支援会議等への利用者本人の原則参加」を個別支援計画の運用のなかで実践していきます。
- ③事業所の安定した運営と提供サービスの質の両立を図る…勤務体制上の課題に対処しながら、できる限りこれまでのサービス内容を維持していけるように取り組んでいきます。

【生活介護事業所すてっぷ 日中活動の概要】 定員:40名

屋内での活動 場所:サポートステーション施設内、地域交流ホーム1階ホール

- 創作活動…利用者それぞれの創作と並行して、期間を区切って季節ごとのテーマに沿って創作を進めていくグループ創作を行っていきます。
- レクリエーション活動…地域交流ホームの1階ホールを使用して、ゲームなどの身体を動かすレクリエーション活動を提供していきます。

屋外での活動 場所:盤溪作業所、事業所敷地内、周辺の公園

①盤溪

- 生産活動…前年度試験的に行った椎茸栽培を継続していきます。専任の職員1名が年間の栽培スケジュールに基づいて利用者グループ(5名編成)を指導していきます。
- こもれびの家(4月～11月半ば)…こもれびの家を拠点として、小グループで盤溪の敷地内でのウォーキング、散策やレクリエーションなどの屋外活動を継続して実施していきます。

②事業所周辺での活動

- 公園清掃事業(5月～11月上旬)…西野南公園の清掃の割り当てを受けており、原則週1回は5名程度の利用者でグループを組んで、職員1名による引率で清掃作業を行います。
- 公園などでの散策…盛夏期(7、8月)と冬期(12月～3月)を除いた期間、全ての利用者に毎週1回は公園などでの散策活動を提供していきます。

【余暇的な活動】

- 全体での活動…前年度と同様に全員対象の余暇活動を年度内に複数回行っていきます。小グループではなく、基本的には2、3グループ程度に分かれて実施していきます。
- 個別の活動(誕生日外出)…各担当職員が本人および保護者と外出の内容を話し合った上で事業計画を立案して実施していきます。

【主な行事予定】

- この実オータムフェスティバル2025…昨年と同様の規模、内容にて法人のまつりを

開催する予定です。職員を含んだ来場者全体で200人程度を想定しており、9月下旬を予定。

●その他の行事…クリスマス会(12月)、新年会(1月)、ごくろうさん会(3月)

■ 保護者との連携

定期的に保護者会(4月、8月、12月に実施予定)と個別懇談を実施して事業所の方針や個別支援計画などについて説明し、保護者からの聴き取りをする機会を確保していきます。

【短期入所事業所りらっく】 定員6名

原則として事業所の非営業日については短期入所の宿泊も休止させていただきますが、保護者からの緊急性のニーズ(家族の入院等)が生じた際には可能な限り対応できるようにしていきます。

この実支援センター

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数見込)約9,500人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制
人員配置体制

利用者が健康で豊かな生活を送れるように、安心して、安定して、安全に生活できるように、質をあげられるように、利用者主体のサービスの提供に努力していきます。そのためには、一人ひとりの障がいを個性と捉え、一人ひとりの障がいの特性を理解すると共に一人ひとりの障がいに応じた、人権に配慮したサービスを提供します。特に、利用者の安全保障と人権擁護の観点から、適正で健全な支援が提供され、利用者の自立と社会参加のための支援を妨げることのないような体制を構築していきます。

建物の老朽化での環境面や利用者の高齢化・重度化での日中活動をどうしていくのか検討する1年にしたいと思います。

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなっつ

(定員)10人 (年間利用者延べ人数見込)約2,300人

(体制等)福祉専門職員配置等 施設外就労 施設外支援

今年度は、作業活動を日本仮設(施設・下請け)とブックオフ(施設外・下請け)の活動をメインとして、利用者の皆さんが慣れた作業を通じて、自分自身のスキルアップについてじっくり考え、取り組んで行く1年にしたいと思います。施設外での作業においては、企業で働いている方との関わりを持ち、社会人としてのルールやマナーを学ぶ機会を設けて行きます。

利用者一人ひとりのニーズをしっかりと把握し、実現のために本人の意思を尊重し相談し合いながら職員全員または多職種間とも協力し合いサービスを提供してまいります。

コミュニティライフこの実

この実会の理念である

『誰もが地域社会の中で自立した人間(ひと)として暮らすこと』

『一人一人が大切にされ、その長い生涯が支えられること』

を具現化するためにどのような支援が必要か、またどのような体制を組み立てるのかを常に検討しながら、安心安全で楽しく人らしい生活をつくります。

令和7年度はさらに高齢化について、介護度の高まりや支援の質の変化が顕著になってきており、大きな疾病の予後の体制を考えるうえで昨年度に引続きハード面や職員の意識・介護技術の向上など利用者と共に歩んでいける体制づくりを目指します。

また、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるよう法人内はもちろん、法人外の社会資源を活用するためのネットワーク作りを行います。

■ 共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)50人 (共同生活住居)10ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約17,100人

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援等体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

昨年度に引続き、就労している方の一人暮らしへ向けての支援を行います。一方で重度の疾病を患ったり、骨粗しょう症治療薬が始まり骨折のリスクが高まっている方など、支援の他に介護の度合いが高くなるケースが増えており、日中サービス支援型の「この実みなぽっけ」や他の福祉サービスを活用して対応できるような仕組み作りを行っています。帰省や外出の制限がなくなったため、ホーム事での外食など、利用者の楽しみの活動の充実を図ります。

■共同生活援助事業 この実みなぼつけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約6,000人

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制

重度障害者支援職員配置

■短期入所事業 この実みなぼつけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数見込)0人

(体制)常勤看護職員等配置 食事提供体制

介護サービス包括型グループホームでも高齢化による入院が増えており、退院後の受け皿として日中サービス支援型の強みを活かせるような体制作りを行います。また訪問リハビリや訪問看護なども活用し身体機能の維持を図ります。

日中を過ごす利用者にも、リハビリや体力維持といった個別のプログラムを用意し行っていきます。

現在、短期入所が2階の女性フロアにある為、女性のみ利用ですが、男性のフロアにも短期入所の居室を用意し、法人内だけでなく地域のニーズにも応えることが出来る体制作りを目指します。

相談室みすくうる

■特定相談支援事業 相談室みすくうる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

(契約者数)78人 (更新見込)29人 (モニタリング見込)191人

■一般相談支援事業 相談室みすくうる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

平成29年1月、社会福祉法人札幌この実会の地域貢献自主事業として福祉総合相談「みすく・うる」を開設しました。その後、平成31年4月に指定特定相談支援事業所(特定相談支援事業・一般相談支援事業)を開設し、7年目を迎えます。

現在の契約件数は、78名(札幌この実会35名、藻岩この実会38名、その他5名)で、自法人の新規のケース1名、セルフプランからの移行1名の受け入れを行い契約しています。2名増えましたが、2名の方が亡くなられ、1名が入院中でサービスの更新停止、1名が就職してサービス終了となっております。

サービス等利用計画の作成や定期的(3ヶ月・6ヶ月)なモニタリングを行っています。

また、藻岩この実会のほっと相談センターで行っている催し物にも参加するようにしており、引き続き、藻岩この実会のほっと相談センターとは出来る限り、協力体制をとっていきたいと考えています。

今年度も事業所や関係機関への訪問を行い、常日頃から情報交換をするなど連携をとり、円滑な関係作りを図れるよう努めていきたいと考えています。今年度も事業所や関係機関への訪問を行い、常日頃から情報交換をするなど連携をとり、円滑な関係作りを図れるよう努めていきたいと考えています。

4. 地域における公益的な取り組みについて

2023年度よりみらい会議(IV)「外部に開かれた運営を目指す」チームの課題の一つとして、検討を進めてきました。今後は、平和第二町内会や西野まちづくりセンターとの関係づくりと、朝市や法人としての行事の拡充を行い、地域における公益的な取り組みに努めていきます。

■外作業班による地域貢献活動

利用者の日中活動の一環として、地域住民の日常生活の困りごとのお手伝いをしています。

■福祉除雪

地域の支え合いとして行われている福祉除雪事業の地域協力員として除雪を行います。

■福祉総合相談

「相談室みすくうえる」において、障がいのある方、高齢の方、そのご家族の困りごとなどを一緒に考え、地域における公益的な活動を目指します。

■清掃活動

公園清掃、地域、バス停及び琴似発寒川のゴミ拾い活動を行います。

■朝市

地域に根ざした事業所を目指し、日ごろお世話になっている地域の方々に新鮮な野菜をできる限り安く販売する朝市を開催します。

2025年度 当初予算について

2025年度当初予算の概要は次のとおりです。()…対2024年度第一次補正予算

《事業所合計》 ※法人本部を除く

事業活動収入 約 489 百万円弱 (約 13 百万円弱減 ▼) …別紙参照

人件費関係の支出 約 358 百万円弱 (約 18 百万円強増 ▲)

○人件費率 約 73%

○人件費積立資産 取崩 10 百万円 (法人本部) ~コミュニティライフへ繰入

経常的なその他の支出 約 140 百万円強 (約 3 百万円弱減 ▼)

《法人合計》

特別な支出に対する積立資産での対応 17 百万円強

○ソフトウェア(SimWork 栄養計算 SimWork 勤怠管理 HPリニューアル) 2 百万円強(本部)

○スプリンクラー(ふらっと) 14 百万円弱 (法人本部)

○修繕・備品等購入 1 百万円 (この実支援センター)

(法人計) 支払資金残高 約 200 百万円強
積立資産残高 約 218 百万円弱

※積立資産の収支 (退職給付引当資産を除く)						(単位: 千円)
		本部	この実サポート ステーション	この実 支援センター	コミュニティ ライフこの実	合計
取崩(A)	積立資産取崩収入	26,202	0	1,000	0	27,202
積立(B)	積立資産支出	7,515	0	0	0	7,515
(B)-(A)		▲ 18,687	0	▲ 1,000	0	▲ 19,687

2025年度の事業活動収入について

事業活動収入計	この実サポートステーション	この実支援センター	コミュニティライフこの実	相談室みすくうえる	合計
2024年度	127,653,000	113,720,000	256,614,000	3,648,000	501,635,000
2025年度	119,711,000	114,767,000	250,758,000	3,691,000	488,927,000
差異	▲ 7,942,000	1,047,000	▲ 5,856,000	43,000	▲ 12,708,000
主な要因 (+)…プラス要因 (-)…マイナス要因	<p>■すてっぷ(生活介護)</p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約740万円 (-) 重度障害者支援加算【開始180日】 ⇒大幅減 (-) 利用者延人数 (+) 区分変更</p> <p>■りらっく(短期入所)</p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約11万円</p>	<p>■おりーぶ(生活介護)</p> <p>自立支援給付費収入…プラス約541万円 (+) 利用者延人数 (+) 人員配置体制加算(2.5:1) (+) 重度障害者支援加算 (-) 重度障害者支援加算【開始180日】⇒減</p> <p>■うえるなっつ(就労継続B型)</p> <p>就労支援事業収入…マイナス50万円 自立支援給付費収入…マイナス約372万円 (-) 利用者延人数</p>	<p>■らいふネット(共同生活援助)</p> <p>自立支援給付費収入、補足給付費収入、特定費用収入 合計…プラス約7万円 (+) 利用者延人数 (+) 重度障害者支援加算 (+) 医療連携体制加算 (-) 重度障害者支援加算【開始180日】 ⇒大幅減</p> <p>■みなぼっけ(共同生活援助+短期入所)</p> <p>自立支援給付費収入、補足給付費収入、特定費用収入 合計…マイナス約472万円 (-) 利用者延人数 (+) 重度障害者支援加算</p>	<p>■相談室みすくうえる(計画相談支援)</p> <p>自立支援給付費収入…プラス約4万円 (+) 計画相談支援</p>	<p>■法人合計</p> <p>就労支援事業収入…マイナス50万円 自立支援給付費収入…マイナス約1020万円 (-) 重度障害者支援加算【開始180日】 ⇒大幅減 ▲1071万円(処遇改善影響分含む) 利用者負担金収入…プラス約8万円 補足給付費収入…マイナス約12万円 特定費用収入…マイナス約28万円 その他の事業収入…マイナス約72万円 (-) 処遇改善臨時特例交付金(▲68万円) 経常経費寄附金収入…マイナス約26万円 (-) 親和会寄付金(旅行引率費用) その他の収入…マイナス約71万円 (-) すいんぐ水濡れ保険金</p>

注) 2024年度…12月・第一次補正予算 2025年度…当初予算